

第2回日野市指定管理者市民評価委員会議事要点録

日時	平成25年7月5日(金)午後1時～午後4時
場所	市役所4階 庁議室
出席者	西山委員長、鈴木副委員長、岩崎委員、貴志委員
議題	1.開会 2.評価 ・日野市立つばさ 社会福祉法人 日野市福祉事業団 ・日野市立やまぼと 社会福祉法人 日野市福祉事業団 ・日野市立はくちょう 社会福祉法人 日野市福祉事業団 ・日野市立希望の家 社会福祉法人 日野市福祉事業団 の報告、質疑、採点 3.全体まとめ
	●内容 ・指定管理者による報告 10分 ・市民委員からの質疑(指定管理者) 20分 ・市民委員からの質疑(主管課) 10分 ・まとめ(採点) 10分 ・全体まとめ
議題1 議題2	●開会 ●評価 (1)日野市立つばさ:指定管理者(社会福祉法人 日野市福祉事業団)による報告 ＝主な質疑(指定管理者)＝ (質問) 都の施設として小平の東京職業者職業能力開発校や特別支援学校があるが、都の施設と市の施設の住み分けはどのようになっているのか。 (回答) 都は主に特別支援学校を設置し、18歳以下の児童を対象にしている。つばさでは特別支援学校を卒業後、一般就労が難しい方に対して作業を提供している。 (質問) 自立訓練事業において、中途障害者の方の人数はどのくらいいるのか。 (回答) 詳しい人数はすぐには出てこないが、多いと感じる。中途障害者のほとんどは脳血管障害によるものである。

(質問)

自立訓練の定員は6名であるが、中途障害者等の市民のニーズはかなり高く、利用したい方もかなり多いのではないかと考えられる。利用待機している方が多くいるのではないか。

(回答)

一日の利用定員は6名であるが、訓練内容が毎日異なるため、利用者も日によって異なる。そのため、登録者数は定員よりも多くいる。登録者は平成24年度末で14名である。現状では待機者はいない。

(質問)

登録者数が少ないのではないか。事業所としてのPRがしっかりできていないのではないか。

(回答)

登録者数は確かに少ないかもしれない。PR活動としては、年に何度か日野市の広報に記事を掲載しているが、それだけでは不足しているかもしれない。

(質問)

就労継続支援（B型）事業についてお伺いしたい。

当該事業については何十年も前から利用者の顔ぶれが同じである。利用者の入れ替えがあまりにも少なすぎるのではないか。つばさとしての特色を出すことはできていたのか。

(質問)

第三者評価を受審したようだが、差し支えなければその結果についても教えていただきたい。

(回答)

第三者評価の結果として、2つの指摘があった。

「食べ物を作る施設ではないので、洋陶で特色を出していくこと。」

「家族会と協同してさらに特色を出していくこと。」

以上の2つである。

(質問)

家族会について教えていただきたい。毎回の出席人数はどのくらいのものか。

(回答)

登録者は34名であるが、長期欠席の方も数名いる。そういった中で、毎回17～18名が出席している。

(質問)

家族会で厳しい意見が出ることはあるか。

(回答)

家族は非常に協力的であり、厳しい意見が出ることはあまりない。クラブ活動の手伝いをして下さる方もいる。

(質問)

民生委員の方たちはつばさの事業内容を知っているが、民生委員以外の人で事業内容を詳しく知っている方はそれほど多くない。

(回答)

日野市の広報の他にも、各施設にリーフレットを置くなど、施設について積極的に発信していく必要はあると考えている。

(質問)

就労継続支援事業は定員33名、登録者が34名となっているが、バランスはとれているのか。

(質問)

就労移行支援事業に1人も利用者がいないが、そもそも市内に利用希望者が少ないからか。

(回答)

就労継続支援事業は定員と登録者のバランスは取れていると考えている。ただし、長期欠席者が数名いるので、今後利用希望者が増えた場合に利用者の入れ替えも考える必要がある。

就労移行支援事業の利用者がいない理由は、特別支援学校で就労支援の体制がしっかりとられており、就労ができる生徒のほとんどは特別支援学校から直接企業に就職してしまうためである。

(質問)

利用者の入れ替えがほとんどないため、利用者・家族の高齢化が進んでいるように見受けられるが。

(回答)

確かに高齢化が進んでいる。家族会に参加していただいている保護者の中で最も高齢な方は92歳である。そのような背景もあり、昨年度は新たな試みとして成年後見制度の説明会を開催した。

(意見)

昨年度初めて成年後見制度の説明会を行ったようだが、遅すぎると感じる。そのような試みはもっと以前からやるべきであった。

=主な質疑(主管課) =

(質問)

日野市福祉事業団が民営化するとどのように変わるのか。社会福祉法人から株式会社に変わるということなのか。

(回答)

法人の形態は社会福祉法人のままである。日野市福祉事業団は「日野市」という冠が取れた法人に移行する。民営化すると、市からの補助は全くなくなる。

(質問)

民営化すると、今回のような評価の制度はなくなるのか。

(回答)

このような形式での評価はなくなる。

=まとめ(採点) =

(2) 日野市立やまぼと： 指定管理者(社会福祉法人 日野市福祉事業団)による報告

=主な質疑(指定管理者) =

(質問)

介護保険も使えず、手帳もない人の相談窓口として非常に重要な役割を担っていると考えている。こういった方が使えるのか。

(回答)

相談支援はどなたでも対象としているが、地域活動支援センターの創作的活動は18歳以上65歳未満の身体・知的の手帳を持った方のみが使える。地域活動支援センターの社会交流事業は創作的活動の講座を卒業された方でも利用されている方がいるなど、どなたでも利用できる。

(質問)

利用者負担は材料費のみであるか。

(回答)

利用者負担は材料費等の実費のみである。

(質問)

定員20名、登録者数28名とあるが、利用率がわからない。稼働率で表すとどれくらいであるのか。

(回答)

平成24年度の延べ利用人数が2,560人であり、定員が20名、開所日数が約244日であるため、稼働率は約50%ほどであった。

(質問)

日野第四中学校でアイマスク体験会をやったようだが、大坂上中とも何か連携をしたとの記載がある。何をやったのか。

(回答)

中学2年生の授業で職場体験があり、その職場体験の受け入れ先となった。

(意見)

日野第四中学校の校長先生から話を聞く機会があったのだが、アイマスク体験会を実施したことで、生徒たちが優しい気持ちになったと聞いた。近くに光の家があり、その利用者の方たちに対する理解が深まったとのことである。

(回答)

日野第四中学校の生徒たちは施設の説明はあまり興味がなさそうであったが、アイマスク体験は非常に熱心に取り組んでいた。

(質問)

65歳未満の方しか受け入れていないのか。65歳以上の方は介護保険を利用することになるのか。

(質問)

利用者の平均年齢は何歳ぐらいか。

(回答)

65歳未満の方しか受け入れられない。利用者の平均年齢は52歳くらい。65歳以上の方も対象であった時代は、利用者の平均年齢は今より10歳ほど高かった。

(質問)

PRの手段は日野市の広報のみであるのか。他の手段でPRしていないのか。

(回答)

PRのメインは日野市の広報とホームページである。他に民生委員の方たちに手伝ってもらったり、「みんなといっしょ旭が丘」を開催したり「産業まつり」にブースを出したりしてPR活動を行っている。他に効果的なPR方法があれば、是非ご教示いただきたい。

(質問)

40～60代の利用者がほとんどで、20・30代の利用者はあまりいないようである。なぜか。

(回答)

40～60代の利用者が7割ほどである。20、30代は対象者自体あまりいない。パソコンの講座に20代の方も数人いる。

高齢の方が周りに多いので、若者が参加しにくいということもあるかも知れない。

(質問)

男女比はどのくらいなのか。

(回答)

男女比は6：4で男性が多い。

(質問)

介護保険のデイサービスをみても、創作的活動のような活動は女性の方の利用が多い。女性が通いづらい環境なのではないか。

(回答)

職員としては、女性が通いづらい環境であると感じることはない。

=主な質疑(主管課) =

(質問)

送迎が委託から臨時職員による自主送迎に変わったが、問題はないか。

(回答)

大きな事故もなく、問題はないと判断している。

(質問)

相談支援をどのように考えているのか。

(回答)

制度の狭間にいる方々を救うためには非常に大切であると考えている。障害福祉課からも、やまばとの案内をしている。

(質問)

地域の自治会との連携はよくできていると思う。もっと学校との連携はできないのか。

(回答3)

学校との連携は大事だと考えている。

(質問)

昔は視覚障害や聴覚障害の方々に施設の空き部屋を貸与して、視覚障害者向けのサービスが行われたり集会が開かれたりしていたが、今はやっていないようである。どうしてか。

(回答)

視覚障害の方向けの点字作成や朗読サービス等は図書館にて行っている。

(質問)

稼働率が約50%で低いが、もっと高くないのか。70%くらいはあるかと思っていた。PR方法を考える必要がある。

(質問)

最近10年間の利用者数の推移はどのようなものだったのか。

(回答)

PRの仕方は考えていく必要がある。最近10年間の利用者数の推移は微増傾向である。

=まとめ(採点) =

(3) 日野市立はくちょう：指定管理者(社会福祉法人 日野市福祉事業団)による報告

=主な質疑(指定管理者) =

(質問)

在籍期間に制限はあるのか。

(回答)

制限はない。

(質問)

利用待機者はいるのか。

(回答)

現在はない。

(質問)

選定委員会の際に指摘した長期欠席者について、働きかけを行い、利用を再開させることができたのは努力がうかがわれる。稼働率も86.9%と高く、評価できる。差し支えなければ第三者評価の指摘事項を教えて欲しい。

(回答)

職員のマニュアルが細かく整備されておらず、また浸透していないことが指摘された。今後は随時マニュアルを作成し、浸透させていく。

(質問)

人員配置が2:1になったということであるが、職員の負担はどうか。送迎も自主送迎となった。

(回答)

送迎中職員がかかりきりになっている状況はある。送迎の際の支援が増えたため、職員の負担は増えたが、送迎中も含めて利用者の支援だと前向きに考えて行っている。

(質問)

送迎を自主的に行うために、職員は増員したのか。

(回答)

人員配置を2:1に増やした。

(質問)

職員の平均年齢はどのくらいか。

(回答)

約45歳である。

(質問)

家族面談には全員来るのか。

(回答)

家族面談は年2回行っている。どうしても来られない方はいるが、特に年度当初の面談は個別支援計画を作成するために必要であるため、働きかけを行い、できる限り来てもらっている。参加者は約9割ほどである。

(質問)

日野台自治会の防災訓練に参加しているようであるが、日野台自治会の防災体制には組み入れられているのか。

(回答)

まだ組み入れられてはいない。現在協議を行っている最中である。協議の結果、今後日野台自治会防災連合と協定を結ぶ可能性はある。

(質問)

現在、缶つぶしは、アルミ缶のみを取り扱っているのか。

(回答)

現在はアルミ缶中心である。アルミ缶にスチール缶が混じっていることもあるが、その際は適切に処理する。ダンボールは他の施設で処分を行っている施設があるため、その施設に持って行っている。

(質問)

支援をしていて、家庭におけるケアが難しい利用者が多いと感じることはあるか。

(回答)

かなり難しい方が多い。保護者にとって家庭のケアで難しいことがあるようであれば、相談にすぐに乗るようにしている。

(質問)

年中行事の一泊旅行はどこに行ったのか。

(回答)

志賀高原に行った。旅館を貸し切る等の配慮をしながら行ってきた。

(質問)

リズム体操とリトミックどちらが好評か。

(回答)

利用者による。リトミックの方が音楽にあわせて踊るという要素が強い。リズム体操は比較的動きが少ない。リズム体操とリトミックそれぞれに好きな方がいる。

(要望)

地域との防災協定を早く締結して欲しい。隣接する日野自動車とも協力できるはずである。

(質問)

一時避難場所は日野台公園なのか。

(回答)

日野台公園である。

(質問)

利用者には車いすの方が多いのか。

(回答)

基本は知的障害者の方である。中には視覚障害をもった方や車いすの利用を必要とする身体障害を併せ持つ方もいる。

=主な質疑(主管課)=

(質問)

自主送迎については評価しているか。

(回答)

評価している。

(質問)

送迎について教えていただきたい。サービスの低下にはつながっていないか。

(回答)

平成23年度以前に委託していた運転手の代わりに職員が運転手となり、送迎を行っている。バスに乗っている職員数自体は変わっていない。委託費の削減や職員の意識向上、サービス向上につながった。

=まとめ(採点) =

(4) 日野市立希望の家： 指定管理者(社会福祉法人 日野市福祉事業団)による報告

=主な質疑(指定管理者) =

(質問)

登録者が71名で1日平均の利用者数が15.77名となっているが、利用者の利用頻度はどのくらいなのか。

(回答)

4・5歳児は毎日の利用である。保育園や幼稚園と併行通園をしている利用者は隔週に1回の利用である。

(質問)

隣にある、あさひがおか児童館と連携はしているのか。

(回答)

「みんなとっしょ旭が丘」での連携がメインである。どうしても必要な場合のみ園庭を使わせてもらっている。

(質問)

あさひがおか児童館の事業に参加することはあるのか。

(回答)

職員があさひがおか児童館の事業に参加することはない。あさひがおか児童館の利用者の母親同士の会話から希望の家のことを知り、つながってくる人はいる。

(質問)

希望の家が、子どもに行っている支援は素晴らしいと思う。

立ち上げ当時の母親の会の理念を守ってほしい。発達支援センターに移行しても、親の不安等に寄り添える事業所であってほしい。

(回答)

保護者との勉強会を毎月行っている。年度当初の勉強会で立ち上げ当時の理念や歴史を保護者に説明している。

=主な質疑(主管課) =

(質問)

希望の家の行政評価の点数が低いのはなぜか。希望の家の職員は非常に頑張っていると思う。

(回答)

文書の管理や報告の面で低く評価した。今後、発達支援センターに移行する上で、この面は改善して欲しい。支援の面ではこのまま利用者に寄り添った支援を継続して欲しい。

(要望)

発達支援センターという名前はいかかなものかと思う。この名前であると、利用者が利用しにくい。利用希望者が入りやすい名前にしてほしい。

(質問)

防災の話はどうなったのか。

(回答)

平成23年の指定管理者候補者選定委員会でも指定管理者から言及があったが、子どもと一緒に親が通園しているので、親に守っていただきます。

=まとめ (採点) =

●全体まとめ

今回の評価委員会は、平成23年度、平成24年度に指定管理者に選定された施設について、指定期間のうち、すでに終了している23年度、24年度の1、2年間の実績を基に審査・評価を行いました。

委員会では、事業者への質疑、担当課への質疑を行い管理・運営についてチェックをしました。

どの指定管理者も、一定の成果を上げていると評価することができます。また、選定時(22年度)で指摘した点についても改善されていた部分がありました。

残り少ない期間になりますが、要望、意見として取り上げたいいくつかの点についても取り組んでいただき、更なる市民サービスの向上に努めていただきたいと思います。

つばさ、やまぼと、はくちょうは来年度から民営化になりますが、更なる市民サービス向上に努めていただきたいと思います。希望の家については、来年度から発達支援センターに移行しますが、移行しても利用者に寄り添った支援を継続していただきたいと思います。

～第2回日野市指定管理者市民評価委員会終了～